

[brh.co.jp](http://brh.co.jp)

# SICPセクター | サマースクール 2009年度の報告 | 催し

1～2分

## サイエンス・コミュニケーション&プロダクション(SICP)セクター

### 「生きものヤジロベエの制作：つりあいから読み解く生命現象」



研究のコミュニケーションは具体的なモノ作りから。頭と手を総動員するSICPセクターの今年の課題は、昨年のBRHカードのオマケで好評を博した「生きものヤジロベエ」の新しい案を企画し、組み立てることでした。スクール生に「課題を与える」と書くと偉そうに聞こえますが、私たちも苦労して考え、締め切りとにらめっこしながら必死の思いで取り組んだテーマでもあります。そこで、サマースクールで取り組んでもらうにあたり、生命誌の表現としてのヤジロベエのコンセプトをもう一度整理してみました。そこから浮かび上がったのが、次の3点です。

- 1) ありきたりではない、ちょっと意外性のある生命現象を、
- 2) ヤジロベエのしかけという面白さを生かして、

### 3) 自分たちはこれが作りたかったのだと胸を張れるもの

この3つを満たすことが企画の条件であり、案を出す過程ではいくつも内部でのダメだしがありました。ただサマースクールでは活動期間が実質1日半と限られていますから、これらの要素を、「話題先行型」、「かたち先行型」、「熱意先行型」と分類し、どれか一つの条件については自分で納得できる企画を考えるということにしました。またヤジロベエの素材は、BRHカードではもちろん厚紙の切り抜きでしたが、作製の手間を考えると紙粘土やスチロール板、針金や竹ひごなど加工しやすいものを選びました。



難しい課題に果敢に挑戦したのは、高校の物理の先生と、生物学の基礎を学ぶ大学生のお二人。初日は、資料とにらめっこしたり、とにかくアイデアを口に出してスタッフと話し合ったり、瞬く間に時間が過ぎていきましたが、終わる頃にはなんとか企画書をつくる段階まで進めることができました。

2日目は、具体的な形にするためのデータの収集と工作タイム。「クジラの心臓の形はどこに載ってる?」「サルの食べる葉っぱの形は?」など、いざ調べようとしてもどこにあるのかわからない難問が続出です。その甲斐あって、発表会では館長、顧問も思わず唸る力作が出そろいました。詳細は、スクール生の感想ページでどうぞ。

山岸敦 (チーフ)

[参加者の感想を見る →](#)

## これまでのサマースクール

---

## サイエンス・コミュニケーション&amp;プロダクション(SICP)セクター

## BRHは格好良いな。

昨年は、娘が小田先生のサマースクールに参加させていただいたのですが、今年は、私も参加しました。お話を伺うと、2年連続で参加できることはまず無理だと言うことですが、運良く難関倍率をくぐりぬけて参加できたことは大変感謝しております。ところで、昨年と今年参加して思ったことなのですが、「BRHは格好良いな。」ということなんです。それはどういう事かということ、BRH全体は、何となくピリッとした緊張感というものがあがりながら、その中で研究している研究者の方々が実にスマートな活動をしていらっしゃる。うまく言えないんですが、本当に頭の良い方々が集まっているんだなと思いました。



そんな研究者の方々から何かを感じ取ってくれたらと娘には期待しているのですが、どうだったのでしょうか。10年後の成長が楽しみです。私は、今年SICPセクターに参加させていただきました。モビルやヤジロベエの様にバランスを取りながら生物学のテーマを表現してみようと言うことでした。なかなかお題に合うようなものが用意できず、山岸さんにヒントをいただきながら表現してみました。自分としては、出来は20点位だとは思いますが、どうだったのでしょうか。でも、わずか2日間で考えたにしては上出来でしょう？

表現すると言うことはとても難しいですね。程度は違うものの、研究者の方々が、自分の考えをいかに分かるものとして表現するか、日頃苦勞していらっしゃる様子をいかに見たよな気がしました。あつという間の2日間、ちょっとそのまま終わるのがもったいないくらい充実した2日間でもありました。

SICPの皆さん、本当にお世話になりました。

(高校教師)

## メッセージの深さを身をもって感じることができました

私はこれまでサイエンスコミュニケーション&プロダクションについて考えてみたことがありませんでした。それをこのサマースクールで、実際に「生きものヤジロベエ」を制作することにより体験できると知り、参加させていただきました。

まずは「どのような生命現象をヤジロベエでつりあわせるか」を決めるところから始まりました。スタッフの方から今までの「生きものヤジロベエ」にまつわるお話やアドバイスなどを伺い、いろいろな書籍のページをめくった末、「シロナガスクジラとハツカネズミを例に挙げて、哺乳類のはく動と寿命のバランスについてヤジロベエで表わす」ということを試みることにしました。

その次に「どのような形のヤジロベエを作るか」について考えました。はく動をヤジロベエの揺れる動きで表現したいという思いははっきりとしていました。一方で、シロナガスクジラとハツカネズミにおける拍動や寿命の対比をいかに表現するかという課題がなかなか解決できず、スタッフ方からたくさんのアイデアをいただきました。

なんとかヤジロベエの形が決まり、制作に入ってから、相変わらず悩みながらも久しぶりの工作を楽しみながら進めることができました。完成したヤジロベエは、完璧とはいえませんがなかなか良い出来だと思いました。最後の発表では、ヤジロベエに込めたメッセージを伝えるつもりでした



が、緊張してしまい、考えていたことすべてを発表できなかったことはとても残念でした。

スタッフの方に支えられながらの2日間の活動を通して、生命現象を表現することが想像以上に難しく、またやりがいのあることだと知りました。活動や昼食の時間にいろいろな方とお話しして、とても楽しく過ごすことができたことに加え、BRHカードに込められたメッセージの深さを身をもって感じることができました。素敵なサマースクールをありがとうございました。

(大学生)

[▲このページの上にもどる](#)



CLOSE



Javascriptをオフにしている方はブラウザの「閉じる」ボタンでウインドウを閉じてください。